

戸籍の窓

【1月1日～1月31日 届出】

ご結婚おめでとう

氏名	住所
新野 健太郎	広野
大井 由紀子	山形市
布川 和浩	鮎貝
高橋 美沙	長井市

こんにちは赤ちゃん

住所	父母の名	子の名
荒砥乙	大滝 雄介 日生	都 叶
鮎貝	板垣 駿 玲菜	千 宙
滝野	齋藤 誠 香苗	律 佳
浅立	梅津 賢二 沙也香	太 翔
高玉	金田 幸浩 真菜美	滯 翔

おくやみ

住所	氏名	年齢
鮎貝	高橋 ゆかり	27
十王	小関 榮子	96
山口	布川 義昭	73
中山	梅津 美智子	91
深山	樋口 忠衛	92
横田尻	佐藤 正幸	65
菖蒲	船山 清吾	85
鮎貝	大滝 春夫	67
荒砥甲	羽田 きよ子	86
深山	羽田 榮吉	77
荒砥甲	海老名 忠三	96
荒砥乙	高橋 貞子	73
横田尻	丸川 武	67
横田尻	丸川 ひろ	91
中山	佐藤 巖	85
鮎貝	神保 達夫	72
荒砥甲	奥山 千代	92
深山	今 さく系	91
荒砥乙	森 末男	83

荒砥乙	丸川 範子	74
十王	佐藤 とみ子	85
荒砥乙	鈴木 美子	86
中山	大滝 き系	86
畔藤	齋藤 ミツ子	80
横田尻	稲毛 利雄	95
荒砥乙	山口 三郎兵衛	85
畔藤	紺野 舞	16

旬の一枚

2月



しらたか旅先案内人さんによる
ワンポイントガイド

「強靱でやわらか、温かさの深山和紙」

白鷹の深山は、縄文の遺跡が出土し、国指定重要文化財「深山観音堂」が建つ、歴史のある集落です。いつからか、この深山や近隣集落で紙すきが行われ、「上り紙」として江戸まで送られたとする江戸時代初期の記録があります。明治になると紙すきは、置賜地域で深山地区だけとなり、障子紙が主な用途で、冬仕事として伝統的な技法で多くの工程をこなし、和紙を作っていました。

深山和紙は、昭和45年、工芸技術として町文化財に指定され、昭和50年には、山形県の無形文化財第1号に指定されました。



菅 亜貴子さん
「白鷹町深山和紙振興研究センター」がオープン、平成23年頃より紙すき農家が皆無になり、町唯一の和紙生産所となりました。卒業証書や版画、白鷹和紙人形など手工芸品に活用されています。

表紙の写真

深山和紙の原料となる楮（こうぞ）。夜も明けきらぬ早朝4時頃から大窯の火加減を調整し、約600キロを3回に分けてふかします。約3時間後、窯を開けると辺り一面は湯気で真っ白に。大人5人がかりで窯から出された楮は、冷水にさらして表皮をはぎ、寒風の下に干されます。こうして、伝統の深山和紙を作るための「伝統の技」は、深山に生きる人たちの手によって守り継がれています。



SELF JUDGE

編集後記

除雪業者の皆さんは、安心したのではないでしょうか？雪があるからこそ撮れる風景もあるので、私も少しホッとしました。

▼新荒砥橋の架替工事が着工しました。58年もの間私たちを支え続けてきてくれた荒砥橋も、人に例えるともつすく還暦を迎えることになりました。新しい橋が完成するまで、もう少しの間がんばってほしいです。

(てつか)

広報しらたかは再生紙を使用しています。

戸籍の窓に載せたい方は、届出のときに戸籍年金係にお申し出ください。